15年03月版③

Wetmaster

施工要領書
取扱説明書

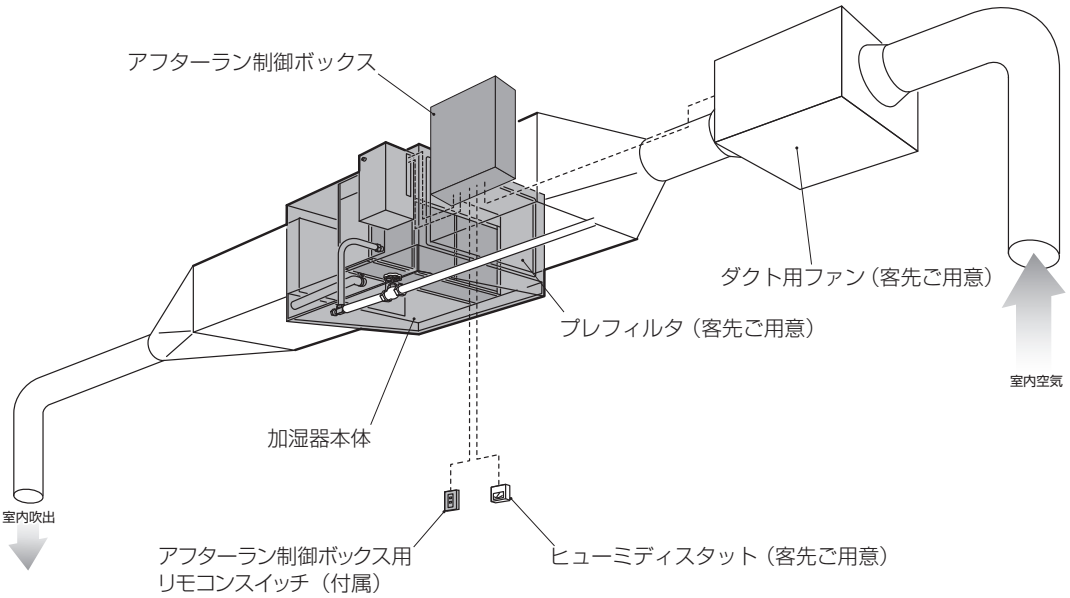
天井隠蔽型 滴下浸透気化式加湿器 WM-VSBタイプ オプション

―― 室内循環加湿用 ――

アフターラン制御ボックス

WM-AFB-VS

（WM-VSB タイプ専用）



施工者の方へ

●加湿器の機能を十分に発揮させ、安全にご使用いただくためには、適切な取付工事が必要です。施工にあたっては必ず本書をお読みいただき、本書の内容に従って施工してください。

●本書を含めて製品添付の説明書類は、必ずお客様にお渡しして、保管いただくように依頼してください。

加湿器をご使用になるお客様へ

●ご使用の前には、必ず本書をよくお読みください。また本書は、製品添付の他の説明書類とともにお客様にて必ず保管してください。

ウエットマスター株式会社

【 目 次 】

■安全上のご注意 ---------- P .1

1. 一　般 ---------- P .2

1-1. 概　要 …… P.2

1-2. 加湿原理について …… P.2

1-3. 使用場所の制限について …… P.2

2. 仕　様 ---------- P .3

3. 施　工 ---------- P .4 ～ 11

3-1. 施工前の確認事項 …… P.4

3-2. 取　付 …… P.5

3-3. 電気配線 …… P.7 ～ 9

3-3-1. ヒューミディスタットの接続 …… P.9

3-3-2. ヒューミディスタットを使用しない場合 …… P.9

3-3-3. 警報信号出力(外部信号出力)を使用する場合 …… P.9

3-3-4. 外部指令信号入力による遠方発停(外部指令制御)を使用する場合 …… P.9

3-4. アドレス設定(リモコンスイッチ初期設定操作)、接続台数確認 …… P.10

3-4-1. アドレス設定方法 …… P.10

3-4-2. 加湿器本体接続台数の確認方法 …… P.10

3-5. 試運転 …… P.11

4. 運転動作 ---------- P .12 ～ 15

4-1. リモコンスイッチの操作 / 表示 …… P.12

4-2. 基本的な運転動作 …… P.13

4-3. リモコンスイッチ、外部指令信号入力の後押し優先機能 …… P.13

4-4. 運転動作と外部信号出力(警報信号) …… P.14

4-5. 警報発生時の運転停止動作およびリモコンスイッチの表示について … P.15

5. 運転管理 ---------- P .16
5-1. 施工後はじめての運転に際して …… P.16
5-2. 日常の運転管理 …… P.16
5-3. 長期休止の場合 …… P.16

6. 故障の原因と処置---------- P .17 ～ 18
6-1. 故障と思われる前に …… P.17
6-2. 故障のチェックと処置 …… P.17
6-3. 故障時の作業が終ったら …… P.17
6-4. 保証期間 …… P.17
6-5. 故障のチェックと処置 / 一覧表 …… P.18

7. 参考資料 ---------- P .19 ～ 22
7-1. アフターラン制御ボックス外形図 …… P.19
7-2. アフターラン制御ボックス用リモコンスイッチ外形図 …… P.20
7-3. 電気回路図 …… P.21
7-4. 結線要領図 …… P.22

安全上のご注意

●取付および取扱は、本書をよくお読みのうえ、本書の内容に従って確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は⚠警告・⚠注意に区分していますが、誤った取付や取扱をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを、特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。
また⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●取付工事完了後は、試運転を行って異常がないことを確認してください。また、本書を含めて製品添付の説明書類は、必ずお客様にお渡しして、保管いただくように依頼してください。

⚠ 警　告

●本製品は、専門業者の管理のもとにご使用ください。
●取付は、専門業者に依頼してください。取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。
●取付工事は製品添付の説明書類に従って確実に行ってください。取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。
●取付は、重さに十分耐える所に確実に行ってください。強度不足や取付工事に不備があると、落下や転倒等による事故の原因になります。
●製品の大きさ、重さに注意してください。取付には製品を支持する揚重機等を使用し、作業者の危険を防止するための措置を講じてください。
●高さが２メートル以上の箇所で作業を行うときは、適正な足場を確保し安全帯を使用する等、墜落による作業者の危険を防止するための措置を講じてください。
●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」および製品添付の説明書類に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電気回路の容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。
●電気配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災の原因になります。
●工事の部材は付属品および指定の部材をご使用ください。寸法や材質等の適合しない部材を使用すると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。
●水道法、消防法等に規制される部材の取扱については、専門業者に依頼してください。
●改造は絶対にしないでください。部品交換を含め、修理は当社または専門業者にご相談ください。修理に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。
●保守点検作業は、当社または専門業者にご相談いただくか、設備機器に関する知識および作業経験のある方が行ってください。保守点検作業に不備があると、水もれや感電、火災等の原因になります。
●保守点検作業を行うときは、必ず運転を停止して元電源を切ってください。

⚠ 注　意

●本製品は、病院空調等、特に清浄度を必要とする空調設備には使用できないことがあります。このような場合は当社までご相談ください。
●給水の水質は、水道法に規定する水質基準に準ずるものをご使用ください。水質が不適当な場合は、室内の空気の汚れの原因になることがあります。
●配管工事は、製品添付の説明書類に従って確実に行い、結露が生じないよう保温してください。配管工事に不備があると、水もれによる事故の原因になります。
●アース接続（D 種接地工事）を行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。
●漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を取り付けてください。漏電ブレーカが取り付けられていないと、感電の原因になることがあります。
●正しい容量のヒューズ以外は使用しないでください。不適当な容量のヒューズや針金・銅線等を使用すると、故障や火災の原因になることがあります

1. 一　般

1-1. 概　要

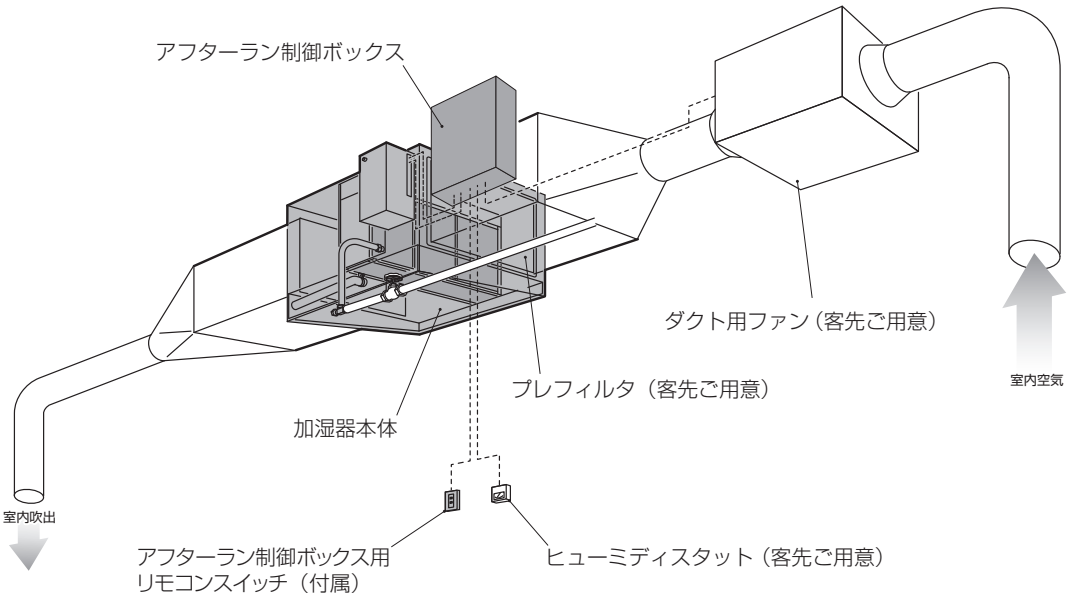
●アフターラン制御ボックスは、ダクト接続型滴下浸透気化式加湿器 WM-VSB タイプとダクト用ファン（客先ご用意）を接続し、室内直接加湿（室内循環加湿）を行うための制御ボックスです。

●アフターラン制御ボックスは、加湿器本体とダクト用ファン（客先ご用意）との連動運転制御を行いますが、加湿運転の任意の設定は、外部指令（無電圧接点入力）による遠方発停、または室内に設置したアフターラン制御ボックス用リモコンスイッチによる手元発停が行え、いずれの場合も「後押し優先」となります。

●加湿運転中はヒューミディスタット（客先ご用意）からの加湿信号により自動運転を行います。

●加湿器の衛生対策として、アフターラン機能を搭載しています。加湿運転停止後に 1 時間のファンアフターラン（加湿モジュール乾燥のための送風運転）を行います。

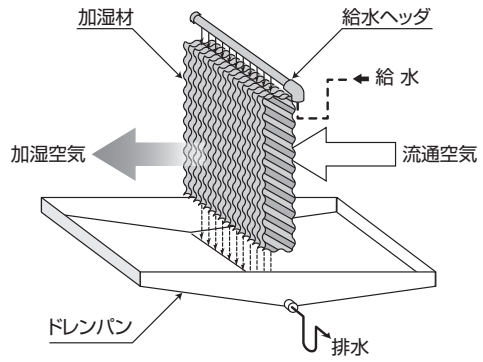
●概略図



1-2. 加湿原理について

●給水は本体内上部の給水ヘッダを通って加湿材に均一に滴下され、下方に向かって浸透します。
気流が加湿材を通過する際に加湿材表面から水分のみが気化蒸発して加湿が行われ、余剰水は加湿材の汚れなどを含みながらドレンとして排水されます（自己洗浄効果）。

●加湿原理のモデル図



1-3. 使用場所の制限について

●滴下浸透気化式加湿器は、右記のような現場では使用できないことがありますので、事前に当社宛お問い合わせください。

＊ 通気、設置場所に腐食性ガスが予想される場合
＊ 厨房、食品工場その他、通気に塩分やオイルミストを含むおそれのある場合
＊ 機械工場など、通気に金属製の塵埃を含むおそれのある場合
＊ 病院などの特殊空調
＊ 供給水が水道水の水質基準を満足しない場合

2. 仕　様

◇仕　様

品　名		滴下浸透気化式加湿器 VSB 用アフターラン制御ボックス			
型　番		WM-AFB-VS			
適合加湿器型番※1		WM-VSB600L	WM-VSB600H	WM-VSB1200H	WM-VSB1200H
適合加湿器加湿能力※2		1.4kg/h（風量 600m^3/h 時）	2.4kg/h（風量 600m^3/h 時）	2.7kg/h（風量 1200m^3/h 時）	4.0kg/h（風量 1200m^3/h 時）
定格電源		単相 AC100V 50/60Hz			
定格消費電力		17W（加湿器本体の消費電力を含む）　※客先ご用意のファンを除く			
質　量		約 2.9kg			
電気特性	電圧許容範囲	±10%以内			
	絶縁抵抗	100 MΩ以上			
	絶縁耐圧	AC1500V 1 分間印加異常なし			
使用条件	周囲温湿度	5 ～ 40℃、80% RH 以下			
運転 / 停止		ヒューミディスタットをご使用の場合は加湿信号により自動発停します。任意の発停は「リモコンスイッチ操作による発停」と「外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御の場合）により行われ「後押し優先」となります。 ※外部指令信号入力は「常時入力信号」と「瞬時入力信号」に対応しています。信号の種類に応じてコントロールユニットのディップスイッチ切替が必要です。			
外部信号出力		警報信号出力：無電圧接点出力（a 接点、125V 3A 抵抗負荷）、自己保持			
能力切替		リモコンスイッチにより強弱２段切替可能			
アドレス設定		制御ボックスとリモコンスイッチの接続時にアドレス設定が必要となります。 ※リモコンスイッチのオートアドレス機能により、当該リモコンに接続されている本体接続台数を認識、設定します（リモコンスイッチの操作と表示灯の点滅回数で接続台数が確認できます）。			
保健衛生対策		アフターラン機能（加湿モジュール乾燥のため送風運転、客先ご用意のファンの発停を行い約 1 時間で自動停止） ※加湿器運転停止時に、衛生的な空調を行うために加湿モジュールの乾燥を行います ※アフターラン中はリモコンスイッチのアフターラン表示灯が点灯します			
客先ご用意		1) ダクト用ファン（AC100V，強弱切替端子付）　参考型番（下記） WM-VSB600H 用：ダイキン工業㈱製 VFDS700B、三菱電機㈱製 BFS-65SUC WM-VSB1200H 用：ダイキン工業㈱製 VFDS1300B、三菱電機㈱製 BFS-120SUC 2) ヒューミディスタット（二位置式、接点容量 2A 以上） 3) 各加湿器ごとに漏電ブレーカ（電源元スイッチ）をご用意ください。			
その他		・ リモコンスイッチがないと運転できません。付属のリモコンスイッチは必ずご使用ください。 ・ 気流入口側やファン吸込側にはプレフィルタ等を設置してください。			

※ 1：WM-VSB2400L/H、WM-VSB3200L/H には対応できません。
※ 2：加湿器入口空気の加湿器入口空気温湿度 23℃・40%RH における値を示します。

3. 施　工

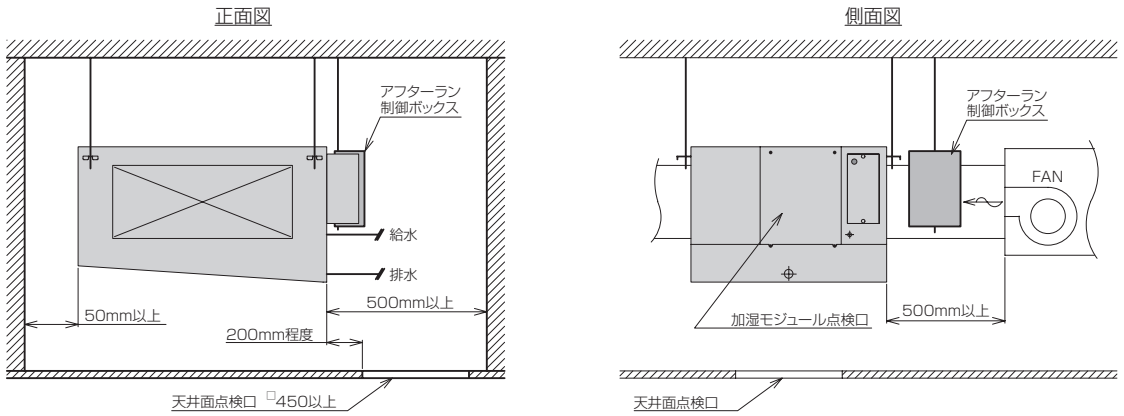
3-1. 施工前の確認事項

施工をはじめる前に以下の各項を確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

（1）加湿器本体およびアフターラン制御ボックス取付位置の確認

●図－１の加湿器本体およびアフターラン制御ボックス周囲スペースが確保できることを確認してください。

図－１　本体周囲スペース



※アフターラン制御ボックスは、加湿器本体用点検口の近傍に取り付けるか、専用の点検口を設けてください。
※アフターラン制御ボックスと加湿器本体との接続コード（付属）は１mです。

（2）使用条件などの確認

●下記の使用条件などを満足していることを確認してください。

①電源電圧　：AC100V（50/60Hz 共用）
②周囲温湿度 ：５～40℃、80% RH 以下
※ダクト用ファン（客先ご用意）の電源も AC100V です。アフターラン制御ボックスよりファン電源 AC100V が出力されます。

（3）梱包内容（付属品）

●梱包開封後は直ちに内容を確認してください。

①アフターラン制御ボックス ····· １台
②接続コード（アフターラン制御ボックス・加湿器本体電源 / 信号接続用） ····· 各１本
③アフターラン制御ボックス用リモコンスイッチ（初期設定操作説明書同梱） ····· １台
④取扱説明書類 ····· 一冊

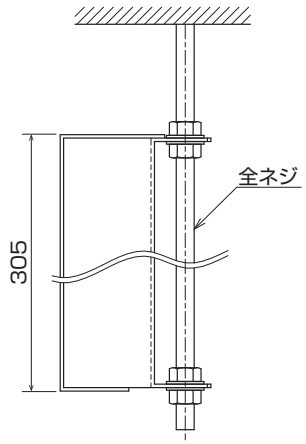
3-2. 取　付

（1）本体の取付

⚠ 注意	●取付は、本体の重さに十分耐える所に確実に行ってください。強度不足や取付工事に不備があると、 落下などによる事故の原因になります。

●アフターラン制御ボックスの吊込寸法は図－２を参照してください。
●吊ボルトを取り付け、必ずダブルナットで固定してください。
●あらかじめボルトにナットを１ヶ通し、ボックスを吊り上げながらナットを２ケ通し、さらに吊り上げてナット１ケを通し、合計ナット４ケで固定してください。
●アフターラン制御ボックスは、加湿器本体用点検口の近傍に取り付けるか、専用の点検口を設けてください。アフターラン制御ボックスと加湿器本体との接続コード（付属）は１mです。

図－２　吊り込み寸法



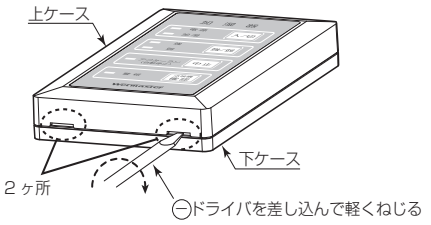
（2）アフターラン制御ボックス用リモコンスイッチ

●リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。
●アフターラン制御ボックス用リモコンスイッチ取り付けに当って、JIS ボックスをご用意ください(JIS C 8340適合品、ピッチ83.5mm、客先ご用意)。
①リモコンスイッチ下面の凹部に、㊀ドライバを差し込んで軽くねじり（2 ヶ所）、上ケースを外してください（図－３参照）。

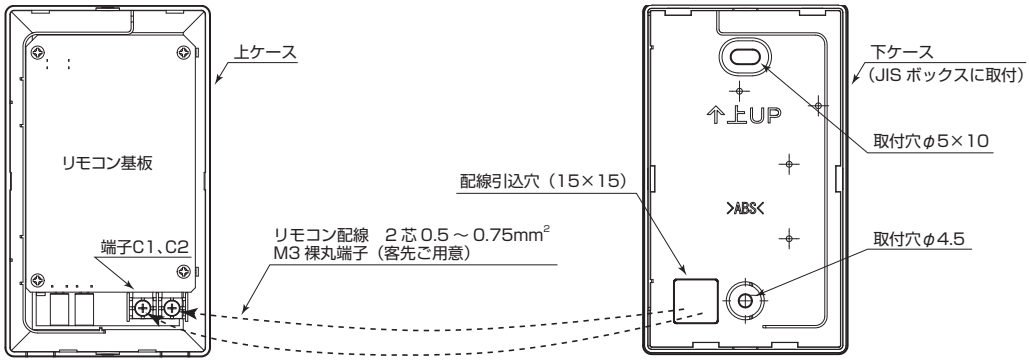
⚠ 注意	●リモコン基板は上ケースに付いています。ドライバ等で基板を傷つけないように注意してください。 ●基板にゴミあるいは水分などが付着しないように注意してください。

②壁面の JIS ボックスに下ケースを取り付けます。
・取付用のネジは JIS ボックスに合わせて現地でご手配ください。

図－３　リモコンスイッチケースの開け方



図－４　リモコンスイッチの取付と配線要領



③配線引込穴から配線を引き込み、リモコン基板の端子に接続します（図－４ 参照）。

・配線は 0.5 ～ 0.75mm² のシース付きビニルコードまたはケーブルをご使用ください（客先ご用意）。

・配線は M3 ねじ用裸丸端子を使用し、リモコン基板の端子 C1、C2 に配線してください。

・リモコン基板の C1、C2 とアフターラン制御ボックスの端子 C1、C2 と接続してください（C1 と C2 の極性はありません）。

④配線を挟まないように注意してリモコンスイッチケースを元通り閉じてください。

※露出配線を行う場合

●配線方向は上記の後方引き込みの他に、下方引き込みまたは上方引き込みとすることが出来ます。

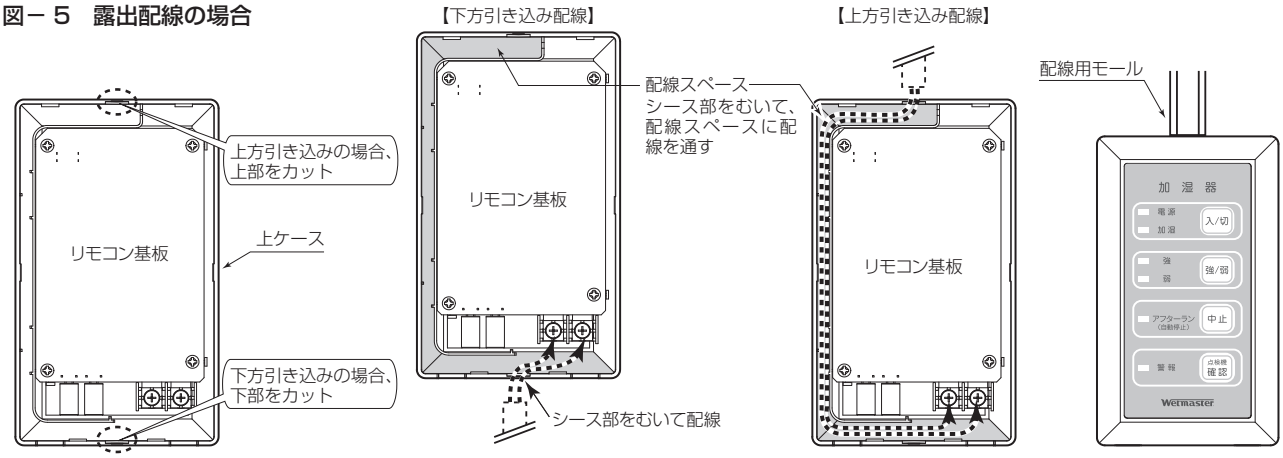
・配線方向にあわせてニッパなどで上ケースの薄肉部を切り取り、ヤスリなどでバリをとってください。この際ケースを割らないように注意して作業してください。

・配線の引き込み方向にあわせて、リモコンスイッチケース内に入るケーブルのシース部をむき、図－５のように配線を回してください。

・配線を挟まないように注意して、壁面に取り付けた下ケースに上ケースをはめ合せてください。

・露出配線は上ケースが外せるように注意して配線用モール（客先ご用意）などで処理してください。

図－５　露出配線の場合



3-3. 電気配線

⚠ 警告	●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」に従って施工してください。電気回路の容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。 ●各配線の接続は確実に行い、接続部にケーブルの外力が加わらないように確実に固定してください。施工不備があると、感電、火災の原因になります。 ●端子台への各配線接続は、1P あたり 2 線までとしてください。1P に 3 線以上接続すると接触不良となり、発熱、火災の原因になります。 ●端子台に接続する絶縁丸型端子は、使用する線材の電線径に適合するものをご使用ください。径の適合しないものを使用すると線の抜けや接触不良を起こし、感電、火災の原因になります。 ●アフターラン制御ボックスコントロールユニットのディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を OFF にし、電源供給を停止してから行ってください。通電したままの作業は感電の原因になります。

●電気配線は客先ご用意となります。加湿器電源として専用回路を使用してください。

●現場の指示等をよくご確認のうえ、確実な電気工事をお願いします。配線にあたっては、図－6 および 21 頁「7-3. 電気回路図」、22 頁「7-4. 結線要領図」を参照してください。

●元電源には必ず漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を設けてください。漏電事故防止および保守点検作業時の安全のため必要です。

●アフターラン制御ボックス用リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。また、リモコンスイッチ 1 ヶで加湿器本体 10 台まで同時制御を行うことができます。

●複数台の加湿器をリモコンスイッチ 1 ケで同時制御させる場合には、加湿器台数分のアフターラン制御ボックスが必要になります。あわせて漏電ブレーカ（電源元スイッチ）も各加湿器ごとにご用意ください。

●リモコンスイッチ配線（リモコン⇔アフターラン制御ボックス 1）および渡り線（アフターラン制御ボックス 1 ⇔アフターラン制御ボックス 2・・・）の信号配線の総配線長は 100m 以内としてください。

●リモコンスイッチと加湿器本体とを結線した後、加湿器の運転前にはアドレス設定が必要です。アドレス設定を行なわないと運転することが出来ません。10 頁「3-4. アドレス設定 (リモコンスイッチ初期設定操作)、接続台数確認」に従ってアドレス設定を行ってください。

●運転制御および“消し忘れ”による多湿や運転中の結露防止のため、ヒューミディスタットをご使用ください。

●ヒューミディスタットは湿度低下で接点が ON となる形式で、接点容量 100V・2A 以上のものをご用意ください。ヒューミディスタット 1 個で加湿器 10 台まで同時制御を行います。9 頁「3-3-1. ヒューミディスタットの接続」を参照してください。

●ヒューミディスタットを使用しない場合には 9 頁「3-3-2. ヒューミディスタットを使用しない場合」を参照してください。

●警報信号を使用する場合は、9 頁「3-3-3. 警報信号出力（外部信号出力）を使用する場合」を参照してください。

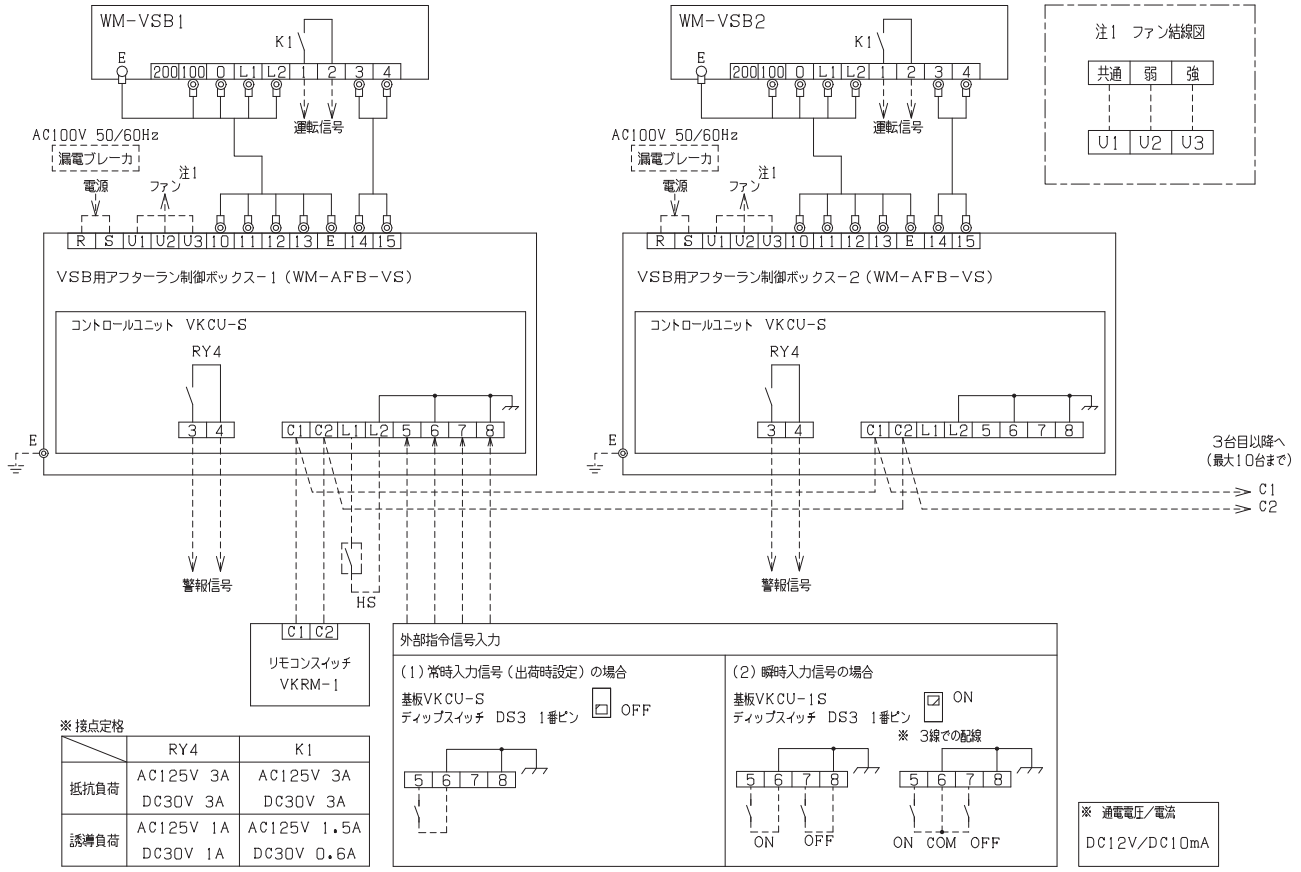
●外部指令信号入力で発停を行なう場合には、9 頁「3-3-4. 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合」を参照してください。

●電源線はファン（客先ご用意）容量に応じた線材を選定してください。また、加湿器本体への配線は付属の接続コードを 2 本使用し、（C 1, C2, L1, L2, 5, 6, 7, 8）は 0.5 ～ 0.75 mm^2 をご使用ください。

●強電の電源ラインと弱電の信号ライン（C1, C2, L1, L2, 5, 6, 7, 8）は分けて配線してください。同一管路内に納めて配線すると、誤動作の原因になります。

●必ずアース接続（D 種接地工事）を行ってください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

図－６　結線要領



※接点定格

	RY4	K1
抵抗負荷	AC125V 3A DC30V 3A	AC125V 3A DC30V 3A
誘導負荷	AC125V 1A DC30V 1A	AC125V 1.5A DC30V 0.6A

※破線部分は客先ご用意となります。

※電源線はファン容量に応じた線材を選定してください。加湿器本体（WM-VSB タイプ）への配線は付属の接続コードを２本使用し、（C1、C2、L1、L2、5,6,7,8）は 0.5 ～ 0.75mm^2 をご使用ください。また、加湿器本体（WM-VSB タイプ）の L1、L2、の短絡線は必ず取り外してください。

※ AC100V 電源は単独で配線してください。

※ヒューミディスタット (HS) および外部指令信号入力の渡り線は不要です。

※リモコンスイッチ 1 ケで本体 10 台まで同時制御可能です。

※リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。

※ヒューミディスタット を使用しない場合には、アフターラン制御ボックス 1 の端子台 L1-L2 間を短絡してください。

※外部指令信号入力に瞬時入力信号を使用する場合には、アフターラン制御ボックス 1 のコントロールユニットのディップスイッチ (DS3 1 番ピン) の設定を変更してください。

※外部指令信号入力のうち瞬時入力信号の場合は、100msec（0.1 秒）以上の接点を入力してください。

※アース（E) は D 種接地工事にて施工してください。

3-3-1. ヒューミディスタットの接続

●ヒューミディスタットは、8 頁 図−6 の「アフターラン制御ボックス 1」の端子 L1、L2 に接続してください。

●加湿器本体を複数台制御する場合でも端子 L1、L2 への接続は「アフターラン制御ボックス 1」のみで全数の運転制御ができます。

●加湿器本体を複数台制御する場合、ヒューミディスタットを複数個使用して各加湿器を個別に制御することはできません。
ヒューミディスタットとリモコンスイッチは対となるようにしてください。

3-3-2. ヒューミディスタットを使用しない場合

●ヒューミディスタットを使用しない場合、8 頁 図−6 の「アフターラン制御ボックス 1」の端子 L1、L2 を短絡してください。
L1、L2 が短絡されない場合、加湿器は運転しません。

●加湿器本体を複数台制御する場合でも端子 L1、L2 の短絡は「アフターラン制御ボックス 1」のみで全数の運転ができます。

3-3-3. 警報信号出力（外部信号出力）を使用する場合

●加湿器本体を複数台制御する場合、警報信号は各アフターラン制御ボックスの端子 3, 4 から
個別に出力されます。

●警報信号は安全保護機能が作動した時に出力されます。

安全保護機能	1) ドレンパン高水位検知（運転停止 / 警報表示灯点灯） 2) ドレン排水用ポンプ高水位検知（運転停止 / 警報表示灯点灯） ※オプションのドレン排水用ポンプ搭載時

●警報信号出力

無電圧接点出力（a 接点）

抵抗負荷	AC125V　3A DC30V　3A
誘導負荷	AC125V　1A DC30V　1A

3-3-4. 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合

⚠警告	**ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を OFF にし、電源供給を停止してから行ってください。通電したままの作業は感電の原因になります。**

●外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）が可能です（この場合においてもリモコンスイッチの取付が必要となります）。

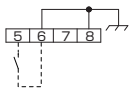
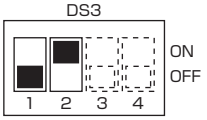
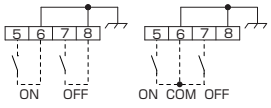
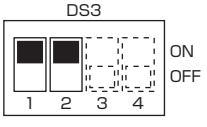
●加湿器本体を複数台制御する場合でも端子 5, 6（5, 6, 7, 8）への接続は「アフターラン制御ボックス 1」のみで全数の運転制御ができます。

●外部指令信号入力は「常時入力信号」と「瞬時入力信号」に対応しています。出荷時は常時入力信号の状態に設定されていますので、
必要に応じてアフターラン制御ボックスコントロールユニットのディップスイッチ（DS3 1 番ピン）を切り替えてご使用ください。

●ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を OFF にし、電源供給を停止してから行ってください。
<u>通電したままディップスイッチ切替作業を行うと、設定変更が正しく反映されません。</u>

●外部指令制御を使用する場合、任意の発停は「リモコンスイッチ操作による発停」と「外部指令信号入力による発停」により行われ、
「後押し優先」となります。

●瞬時入力信号を使用する場合、下図の配線接続を参照して現場配線数に合わせて接続してください。

信号の種類と配線接続			ディップスイッチ設定	備　考
常時入力信号		通電電圧・電流 DC12V・10mA		運転時に ON、停止時に OFF となる接点信号を入力してください。 ※出荷時設定
瞬時入力信号		通電電圧・電流 DC12V・10mA		瞬時入力信号は 100msec（0.1 秒）以上の a 接点の信号を入力してください。

3-4. アドレス設定（リモコンスイッチ初期設定操作）、接続台数確認

●アフターラン制御ボックス用リモコンスイッチ・アフターラン制御ボックス・加湿器本体およびファンを結線した後、加湿器の運転前にはアドレス設定が必要です。アドレス設定を行わないと加湿器を運転することができません。以下の点を確認してアドレス設定を行ってください。

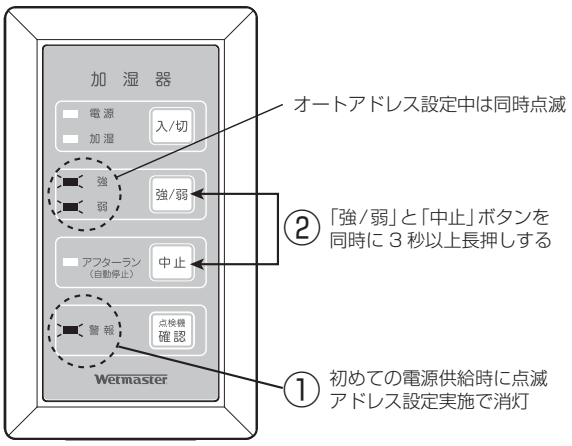
□リモコンスイッチとアフターラン制御ボックス間の配線接続（C1、C2）が終了している。
□1つのリモコンスイッチで複数のアフターラン制御ボックスを制御する場合、各アフターラン制御ボックス間の渡りの配線接続（C1、C2）が終了している。
□1つのリモコンスイッチで複数の加湿器本体を制御する場合、加湿器本体は 10 台以下であること。

3-4-1. アドレス設定方法

① 1 つのリモコンスイッチに接続しているすべての加湿器電源を供給します〔電源元スイッチ（漏電ブレーカ）をON〕（図−7 ①）。
・初めての電源供給の際、全ての表示灯が点滅（約 5 秒間）後、「警報」表示灯が点滅。アドレス設定を行うと消灯します。

②リモコンスイッチ上の「強 / 弱」ボタンと「中止」ボタンを同時に3秒以上長押しする（図−7 ②）。
・以上の操作を行なうと、アドレス設定が自動で開始され、設定が完了すると終了します（最長 2 分程度）。
・オートアドレス設定中は、リモコン上の「強」「弱」表示灯が 0.5 秒間隔で同時に点滅し、約 1 分後に消灯、その後「加湿」表示灯が加湿器本体接続台数分の回数を 0.5 秒間隔で点滅し、3 回繰り返した後、消灯します。

図−7　アドレス設定方法



図−8　アドレス設定時のリモコン表示

表示灯	電源ON時（約5秒間）	アドレス設定			
		設定前	設定中	設定終了時	終了後
電　源	☼	—	—	—	—
加　湿	☼	—	—	☼※	—
強	☼	—	☼	—	—
弱	☼	—	☼	—	—
アフターラン	☼	—	—	—	—
警　報	☼	☼	—	—	—

☼ は点滅を示します
※アドレス設定終了時は接続台数分の点滅を3回繰り返します。
（例）加湿器4台接続の場合、「加湿」表示灯点滅 4 回を3回繰り返す

●オートアドレス設定中は、リモコンスイッチ上の何れのボタンを押しても反応しません。
●1台もアドレス設定ができなかった場合は、「警報」表示灯が点滅します。
●加湿表示灯が接続台数分の回数を点滅しなかった場合や「警報」表示灯が点滅した場合、正しくアドレス設定ができていません。アフターラン制御ボックスのコントロールユニットの LED1（緑）が「点滅していない」、または「早い点滅（0.1 秒サイクル）」となっていないかを確認してください。「点滅していない」場合には電源を確認してください。
「早い点滅（0.1 秒サイクル）」の場合にはリモコン配線およびアフターラン制御ボックス間の渡りの信号配線（C1、C2）を確認し、再度アドレス設定を行ってください。

3-4-2. 加湿器本体接続台数の確認方法

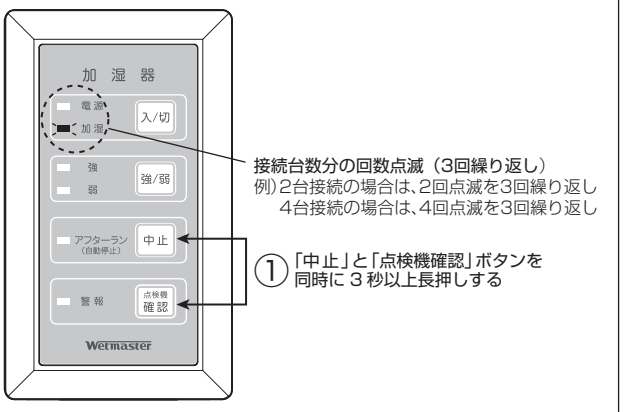
●以下の方法でアドレス設定終了時にリモコンスイッチ 1 台に加湿器本体が何台接続されているかを確認できます。

①リモコンスイッチ上の「中止」ボタンと「点検機確認」ボタンを同時に3秒以上長押しする（図−9 ①）。

・以上で接続台数確認を開始し、確認終了後自動的に終了します。

●接続台数の表示は図−8 のアドレス設定終了時と同じです。「加湿」表示灯が加湿器本体の接続台数分の回数を 0.5 秒間隔で点滅し、3 回繰り返した後に消灯します。

図−9　接続台数確認方法



3-5. 試運転

施工後は、以下の手順で試運転を実施し、不都合な点があれば必ず修正してください。

(1) 試運転準備

●試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

□加湿器本体が水平に取り付けられていること（水準器をご使用ください）。
□給水配管のリングジョイントが接続され、軟銅管の折れやつぶれのないこと。
□排水ホースはホースバンドで接続され、排水配管は 1/100 以上の先下がり勾配が確保され、流れの障害がないこと。
□各電気配線が正しく接続・固定されていること。
□コントロールユニットのディップスイッチが正しい位置に設定されていること。
□天井面点検口の位置が適正であること（配管部などの保守作業に支障がないこと）。
□給水配管のフラッシングを十分に行ったかどうか再確認する（必要に応じてフラッシングを実施）。

●試運転開始にあたっては、下記の準備作業を行ってください。

□給水サービス弁を開ける。
□ヒューミディスタットの設定を最大にする。
□ヒューミディスタットが無い場合は、リモコンスイッチを接続したアフターラン制御ボックスの端子 L1, L2 を短絡する。
□加湿器の漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を ON にして電源を供給する。
□リモコンスイッチの「警報」表示灯が点滅していないことを確認する。アドレス設定を行っていない場合「警報」表示灯が点滅します。この場合、10 頁のアドレス設定を行ってください。アドレス設定を行わないと加湿器を運転することができません。

(2) 試運転手順

●準備ができたら下記の手順で試運転チェックを行ってください。

①リモコンスイッチの「運転ボタン」を押す（入モードにする）と同時に「電源」表示灯・「加湿」表示灯・「強」表示灯が点灯し、ファンが運転を開始することを確認する（12 頁「4. 運転動作」を参照してください）。
②そのまま 30 分間運転を継続し、本体および配管各部からの漏水のないことを確認する。
③「強 / 弱」ボタンを押して弱運転に切り替え、ファンの送風音が弱くなることを確認する。
④ヒューミディスタットの設定目盛りを動かして接点を ON/OFF させ、「加湿」表示灯と「アフターラン」表示灯が交互に点灯 / 消灯することを確認する。
⑤再度「運転」ボタンを押す（切モードにする）と同時に「電源」表示灯・「加湿」表示灯・「強」表示灯・「弱」表示灯が全て消灯し、「アフターラン」表示灯のみの点灯となることを確認する。
⑥そのまま放置し、アフターランが約 1 時間後に自動的に終了することを確認する。

(3) 試運転後の作業

●試運転チェックが終了したら、下記の作業を行ってください。

①アフターランが終了してファンが停止した後に、加湿器の漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を OFF にし、電源を切る。
②ヒューミディスタットの設定を設定湿度に合わせる。
③給水サービス弁を閉める。
④給水ストレーナの掃除を行う（滴下浸透気化式加湿器 WM-VSB タイプの取扱説明書参照）。

(4) 最終点検

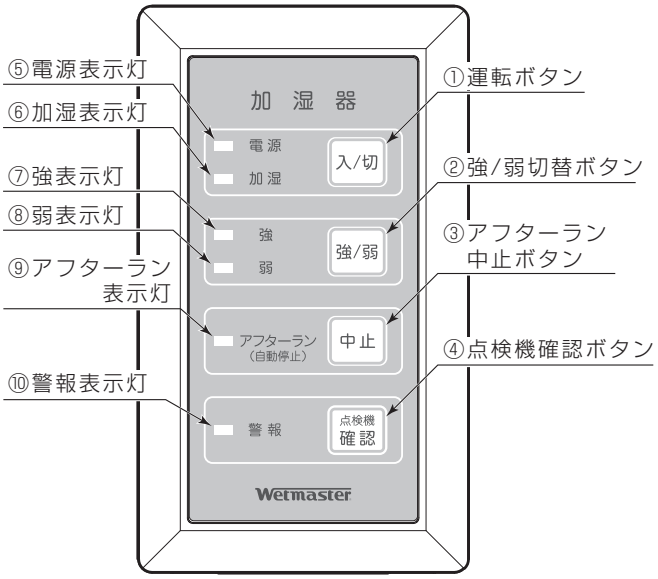
●安全のため、最終点検をお願いします。不都合な点があれば必ず修正してください。

□加湿器本体は水平ですか？
□給水配管からの漏水はありませんか？
□給水サービス弁は閉まっていますか？
□排水配管からの漏水はありませんか？
□排水配管の先下り勾配は確保されていますか？
□電気配線の各接続・固定は確実に行われていますか？
□漏電ブレーカ（電源元スイッチ）は OFF になっていますか？
□ヒューミディスタットは希望湿度に設定されていますか？

4. 運転動作

4-1. リモコンスイッチの操作／表示

図－10　アフターラン制御ボックス用リモコンスイッチの各部名称



①運転ボタン
運転モードを入 / 切します。

②強 / 弱切替ボタン
ファンの強運転と弱運転を切り替えます。

③アフターラン中止ボタン
アフターランを強制的に中止します。やむを得ない場合以外は押さないでください。

④点検機確認ボタン
警報が発生した加湿器を確認します。「警報」表示灯点灯時に押すとアフターラン制御ボックス用の警報発生器より微小電子音が 30 秒間鳴ります。途中で止めたい場合には点検機確認ボタンをもう一度押します。

●運転モード（入 / 切）別の表示と動作は下記表のとおりです。
⑤の「電源」表示灯の点灯 / 消灯でモードを判別できます。

●ブレーカ ON 時にはすべての表示灯が点滅します（約 5 秒間）。
消灯後、リモコン操作を行ってください。

運転モード		入モード								切モード	
ヒューミディスタット		無		有						有無共通	
運転状態		A		B		C		D		E	F
		加湿運転		加湿運転（ヒューミ= ON）		アフターラン（ヒューミ= OFF）		待機状態（ヒューミ= OFF）		アフターラン	初期状態
ファン強弱		強	弱	強	弱	強	弱	強	弱	強弱共通	強弱共通
表示灯（○点灯）	⑤ 電　源	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
	⑥ 加　湿	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－
	⑦ 強	○	－	○	－	○	－	○	－	－	－
	⑧ 弱	－	○	－	○	－	○	－	○	－	－
	⑨ アフターラン	－	－	－	－	○	○	－	－	○	－
	⑩ 警　報	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

（1）入モードの場合（「電源」表示灯が点灯）・・・リモコンスイッチ運転ボタン ON、または外部指令信号入力による運転 ON

A： ヒューミディスタット無の場合は、加湿運転（A）のみとなります。

B： ヒューミディスタット有の場合は、この接点が ON であれば加湿運転（B）になります。

C： 加湿運転中（B）にヒューミディスタットが OFF になると、自動的にアフターラン（C）に入ります。ヒューミディスタットが ON になれば加湿運転（B）を再開します。

D： ヒューミディスタット OFF の状態が 1 時間以上続くと、自動的にアフターラン（C）を終えてヒューミディスタットからの加湿信号の待機状態（D）になります。また初期状態（F）でヒューミディスタットが OFF の時に運転ボタンを押した場合も、そのまま待機状態（D）になります。ヒューミディスタットが ON になれば加湿運転（B）を再開します。

（2）切モードの場合（「電源」表示灯が消灯）・・・リモコンスイッチ運転ボタン OFF、または外部指令信号入力による運転 OFF

E： 加湿運転中（A B）またはアフターラン中（C）に運転ボタンを押すと、運転終了のためのアフターラン（E）に入ります。

F： 運転終了のためのアフターラン（E）が完了すると、自動的に初期状態（F）に戻ります。また待機状態（D）で運転ボタンを押した場合も、そのまま初期状態（F）に戻ります。

（3）リモコンスイッチ運転ボタン OFF 後、または外部指令信号入力による運転 OFF 後の再運転時のファン強弱について

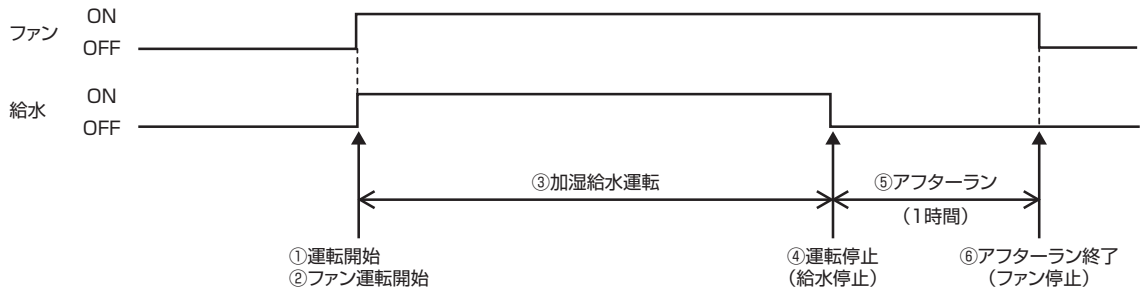
運転停止前の状態が「強」であれば「強」で運転し、運転停止前の状態が「弱」であれば「弱」で運転を開始します。

4-2. 基本的な運転動作

●運転ボタン ON 時やヒューミディスタット ON 時など、加湿器の運転開始時とともにファンが運転し加湿を行います。

●運転ボタン OFF 時やヒューミディスタット OFF 時などの運転停止時には給水を停止した状態でファンのみ運転させ加湿モジュールを乾燥させた後自動停止します（アフターラン機能による加湿モジュール乾燥、1 時間）。

図－11　運転動作タイミングチャート



●基本運転動作

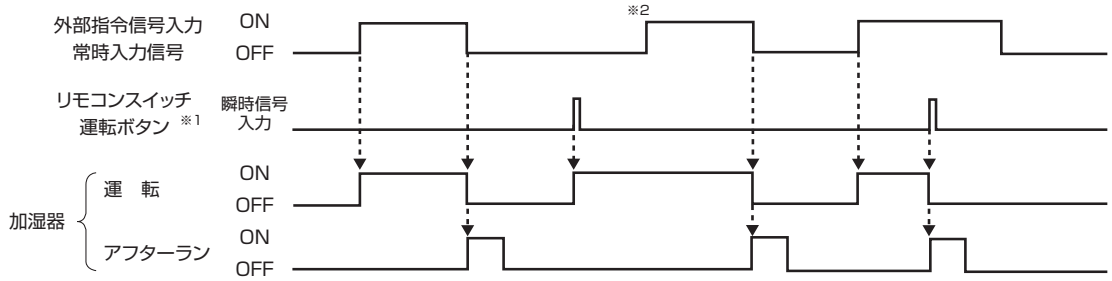
①運転ボタンまたは外部指令信号入力、およびヒューミディスタット ON による運転開始 → ②ファン運転開始→ ③加湿給水運転 → ④運転ボタンまたは外部指令信号入力、ヒューミディスタット OFF による運転停止 → ⑤アフターラン開始（給水停止）→ ⑥アフターラン終了 (ファン停止)

4-3. リモコンスイッチ、外部指令信号入力の後押し優先機能

●アフターラン制御ボックス用リモコンスイッチでの発停の他に外部指令信号入力による発停を併用する場合、後押し優先で動作します。

●外部指令信号入力の種類は常時入力と瞬時入力に対応しています。出荷時設定は常時入力信号となっています。瞬時入力を使用する場合、加湿器本体コントロールユニットのディップスイッチの切換えが必要です。

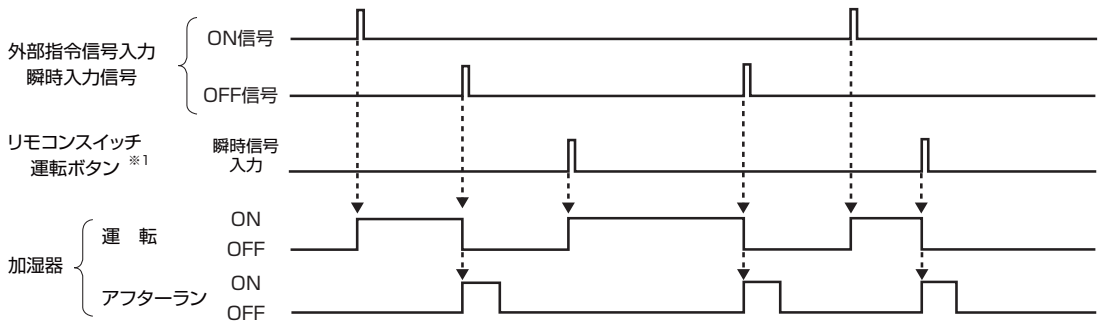
図－12　常時入力信号動作タイミングチャート（ヒューミディスタット ON 時）



※ 1：リモコンスイッチの運転ボタン（「入 / 切」ボタン）は、停止中に押すと運転し、運転中に押すと停止します。

※ 2：後押し優先動作のため、外部指令信号入力で強制停止させる場合は接点 ON → OFF 入力が必要になります。
また、強制運転させる場合は接点 OFF → ON 入力が必要になります。

図－13　瞬時入力信号動作タイミングチャート（ヒューミディスタット ON 時）

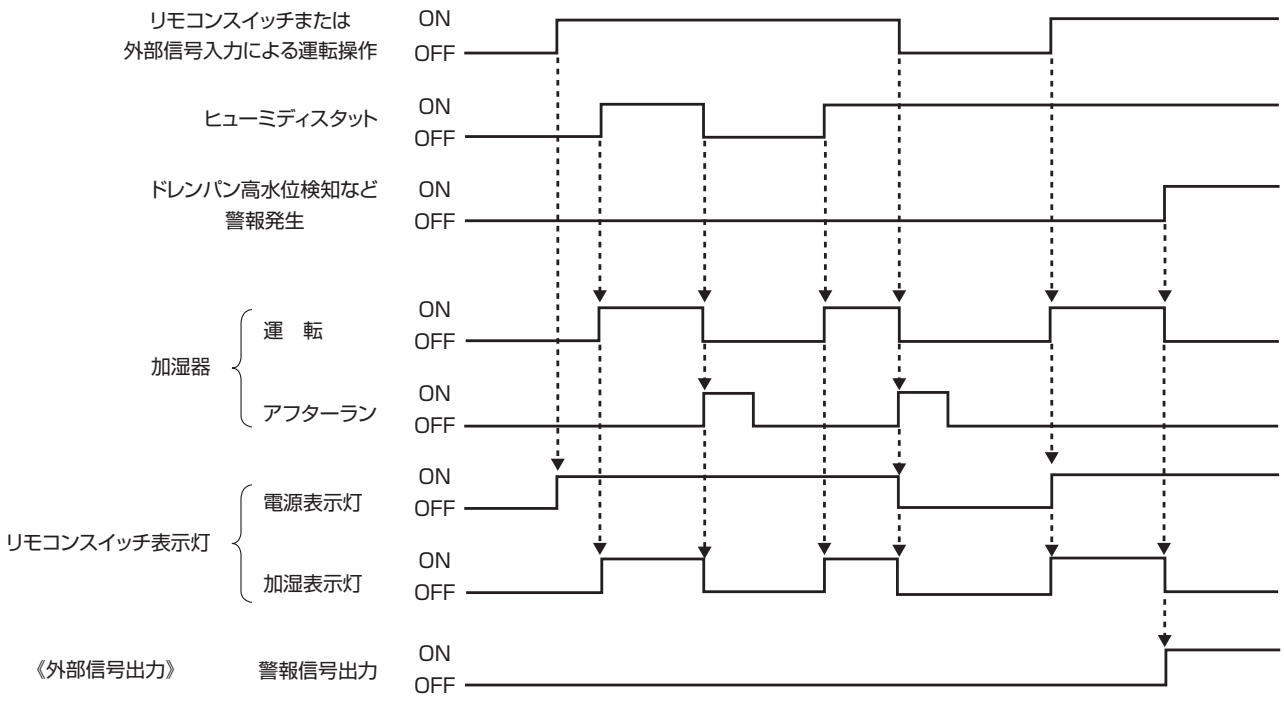


※ 1：リモコンスイッチの運転ボタン（「入 / 切」ボタン）は、停止中に押すと運転し、運転中に押すと停止します。

4-4. 運転動作と外部信号出力（警報信号）

●警報信号はドレンパン高水位検知の安全保護機能作動時に出力されます。警報発生時には警報が発生した加湿器の運転およびファンを停止し、リモコンスイッチの「警報」表示灯が点灯します。警報は自己保持されているので復旧するには処置後、元電源（漏電ブレーカ）をOFF してください（電源 OFF で自己保持が解除されます。リモコンスイッチでは解除されません）。

図－14　運転信号出力タイミングチャート



4-5. 警報発生時の運転停止動作およびリモコンスイッチの表示について

●本加湿器には下記の 2 種類の安全保護機能があります。安全保護機能作動時には 17 頁「6. 故障の原因と処置」の項を参照して処置を行ってください。

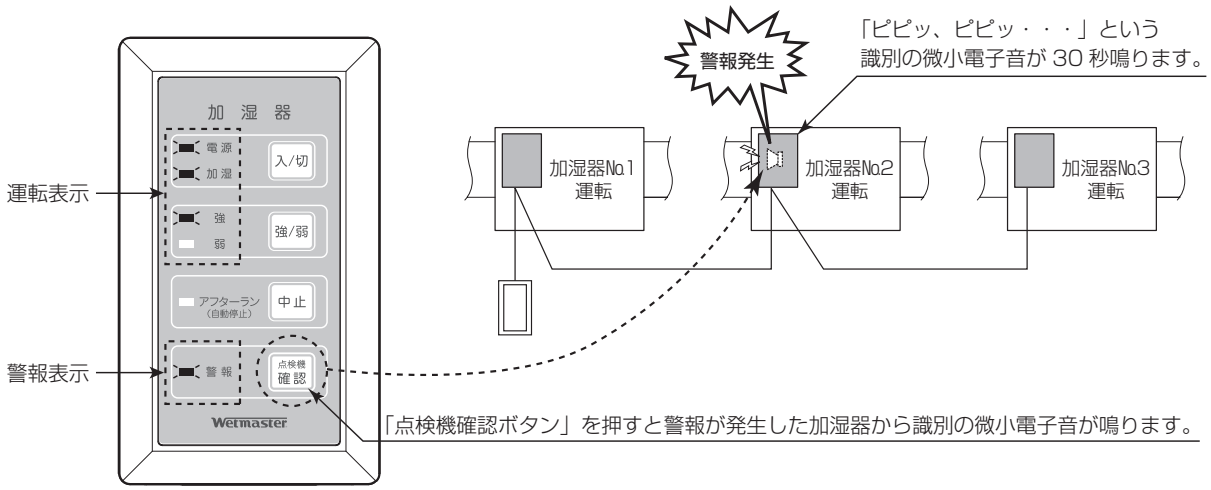
No.	安全保護機能	安全保護機能作動時				警報解除
		運転動作	リモコン スイッチ表示	外部信号出力	コントロール ユニット LED	
1	ドレンパン高水位検知	運転停止（自己保持）	「警報表示灯」点灯	警報信号出力	LED3（赤）点灯	元電源をOFFすると警報の自己保持が解除されます。警報内容処置後に電源を再投入してください。
2	ドレン排水用ポンプ高水位検知（ドレン排水用ポンプ搭載時）				LED5（黄）点灯	

※ LED3，LED5 の点灯は、ドレン排水用ポンプの高水位が解除された状態で一度ドレン排水用ポンプの電源を OFF にし、再度電源を ON にします。その後、アフターラン制御ボックスコントロールユニットのリセットスイッチ（BS1）を押すと解除できます。

●1 つのリモコンスイッチで加湿器本体を複数台制御時には、安全保護機能が作動した加湿器およびファンのみ運転を停止します。
この時、リモコンスイッチの表示は運転状態の表示と警報発生の表示の両方を表示します（図－15）。

●警報発生時に「点検機確認ボタン」を押すと警報が発生したアフターラン制御ボックスより微小電子音が 30 秒間鳴ります。アフターラン制御ボックスからの電子音を確認することで警報が発生した加湿器が特定できます（微小電子音を途中で止めたい場合には点検機確認ボタンをもう一度押します）。

図－15　警報発生時のリモコンスイッチの表示および操作



5. 運転管理

⚠ 警告	●本製品は、専門業者の管理のもとにご使用ください。誤った取扱をした場合には、水もれや感電等の事故の原因になります。

5-1. 施工後はじめての運転に際して

●施工後にはじめて運転を開始する場合には、下記の手順で運転準備を行ってください。

①給水配管のフラッシングを行う（滴下浸透気化式加湿器 WM-VSB タイプの取扱説明書参照）。
②給水サービス弁を開ける。
③ヒューミディスタットは希望湿度にセットする。
④加湿器元電源の漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を ON にして電源を供給する。

5-2. 日常の運転管理

⚠ 注意	●加湿器の運転休止中に含水状態の加湿モジュールが長時間放置されることは望ましくありません。 従って加湿器のアフターランは中止させないでください。やむを得ず中止した場合には再度「運転ボタン」を押して入 / 切させ、アフターランを行ってください。

●アフターラン制御ボックス用リモコンスイッチによる加湿器の運転操作は 12 頁「4. 運転動作」を参照してください。
●アフターラン制御ボックス用リモコンスイッチによりファンの強 / 弱切替ができます。必要に応じて運転を切り替えてご使用ください。
●室内に設置されたヒューミディスタットの加湿信号に伴って自動運転を行います。
●外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を行っている場合、運転または停止の外部指令信号入力に伴って自動運転を行います。
●運転停止の際には加湿モジュールを乾燥させるためのアフターラン機能が働きます。「運転ボタン」を押して切モードにした後、およびヒューミディスタットの信号が OFF になった後に、無給水で約 1 時間の送風を行って自動的に停止します。
●24 時間連続運転となるような場合、衛生的な空調を行うために一日に一回、加湿器の運転を停止して、アフターランを行ってください。アフターラン機能により、定期的に加湿モジュールを乾燥させることで、臭気などの発生を予防します。
●「アフターラン中止ボタン」は、アフターラン中にやむを得ず送風を中止しなければならないとき以外は押さないでください。
●ヒューミディスタットを設置しない場合、夜間や休日など“消し忘れ”にご注意ください。換気しない状態で長時間運転を続けた場合など、加湿負荷が少ない状態では多湿になり、窓の結露や壁クロスのはがれなどの原因になります。
●本体内で警報（ドレンパン高水位）が発生した場合には、安全保護機能が働いて警報の発生した本体のみを停止し、リモコン上の「警報」表示灯が点灯します。17 ～ 18 頁「6. 故障の原因と処置」を参照し、対処してください。

5-3. 長期休止の場合

(1) 長期休止にあたって

●加湿のシーズンオフなど加湿器の運転を長期休止する場合は、下記の作業を行ってください。

①アフターランが終了した後に、加湿器の漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を OFF にする。
②給水サービス弁を閉める。

(2) 長期休止後の運転再開にあたって

●シーズンインなど運転再開時には、所定の保守点検作業が必要になります。加湿器本体（WM-VSB タイプ）の取扱説明書を参照して、確実に作業を行ってください。

6. 故障の原因と処置

⚠ 警告	●部品交換を含め、修理は当社または専門業者にご相談ください。修理に不備があると、水もれや感電、火災等の原因になります。 ●改造は絶対にしないでください。改造すると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

6-1. 故障と思われる前に

●正常な動作を行わない場合でも、必ずしも故障が発生しているとは限りません。故障のチェックを行う前に、まず、下記の諸点をチェックしてください。

□アフターラン制御ボックスへの電源が供給されていること。
□アドレス設定が行なわれていること（「警報」表示灯が点滅していないこと）。
□アフターラン制御ボックス用リモコンスイッチが入モードになっていること（「電源」表示灯が点灯していること）。
□ヒューミディスタット（湿度調節器）はこの設定が希望湿度にセットされていること。
□ヒューミディスタットがない場合はリモコンスイッチを接続しているアフターラン制御ボックスの端子 L1、L2 が短絡されていること。
□ドレン排水用ポンプを使用している場合は、ドレン排水用ポンプへの電源が供給されていること。
□給水サービス弁が開いていること。
□断水していないこと。

●なおも復旧しない場合には、次頁の一覧表を参照してチェックおよび処置を行ってください。

6-2. 故障のチェックと処置

●次頁「6-5. 故障のチェックと処置 / 一覧表」を参照して、故障のチェックと処置を行ってください。
●表内で ■ 印の原因に該当する場合には、当社宛お問い合わせください（サービスコール）。
●リモコンスイッチの「警報」表示灯が点灯した場合、１つのリモコンスイッチで複数台制御を行っている場合には 15 頁「4-5. 警報発生時の運転停止動作およびリモコン表示について」を参照して警報が発生した加湿器を特定し、処置を行ってください。

6-3. 故障時の作業が終わったら

●故障のチェックとその処置が終わったら必ず運転確認を行い、正常な動作および配管各部からの水もれのないことを確認してください。
●不都合な点があれば必ず修正し、なおも正常な動作を行わない場合は当社宛お問い合わせください。

6-4. 保証期間

●当製品の保証期間は、銘板表示の製造年度の翌年末までです。取扱説明書および本体貼付ラベル等の要領に従った、正常な使用状態で故障した場合には無料修理いたします。
●保証期間内においても、使用条件外でのご使用による故障、選定および取付の不良による故障、改造による故障、特殊用途でのご使用による故障などにつきましては、有料修理となります。
また、取扱説明書に交換周期の明示されている部品の交換、作業時期の明示されている保守点検作業につきましては、保証期間内においても有料となる場合があります。

6-5. 故障のチェックと処置 / 一覧表

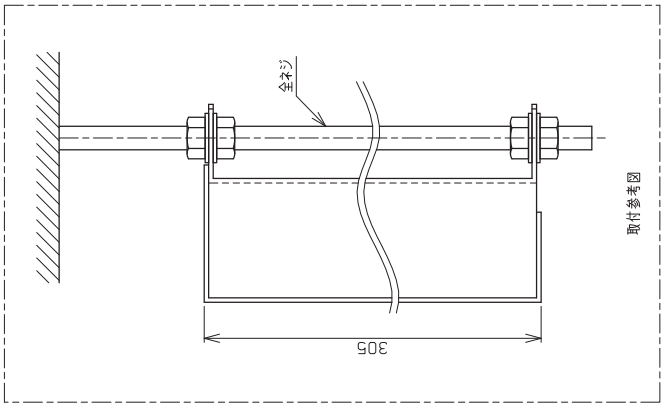
●表内で ▮ 印の原因に該当する故障と判断される場合には弊社宛ご連絡ください。

リモコン表示	故障原因	処 置
①加湿器が運転しない		
全消灯	漏電ブレーカ（電源元スイッチ）が OFF または停電している	電源を供給する
	正しい電源 (AC100V) が供給されていない	確認し修正する
	リモコンが切モード (運転ボタンを押していない)	運転スイッチを押す
	ヒューズ (基板上) が切れている	▮ サービスコール
	基板電源スイッチ（SW1）が OFF になっている	基板スイッチ(SW1)をONにする
警報表示灯点滅	アドレス設定されていない	アドレス設定する（10 頁参照）
電源表示灯のみ点灯	ドレン排水用ポンプを使用している状態で、ドレン排水用ポンプに電源が供給されていない	電源を供給する
②運転しているが加湿不足になる		
正 常 (12 頁 4-1. 参照)	弱運転になっている	強運転に切り替える
	給水サービス弁が閉まっている	弁を開ける
	給水ストレーナの目詰まり	ストレーナを掃除する
	給水圧力が低い	確認し修正する
	断水している	確認する
	ファンの故障	修理または交換する
	ヒューミディスタットの設定が低い	設定目盛りを確認する
	ヒューミディスタット故障 (接点が ON にならない)	修理または交換する
	フィルタの目詰まりによる風量低下	フィルタを掃除する
	加湿モジュールが汚れて吸水性が低下し加湿能力が落ちている	加湿モジュールを洗浄または交換
	上記以外の場合	▮ サービスコール
③本体内ドレンパン高水位		
警報表示灯点灯 (下記備考参照)	本体が水平でない	確認し修正する
	排水配管の先下がり勾配が不十分	確認し修正する
	ドレンパン排水口または排水配管の目詰まり	確認し修正する
	排水配管に極端な曲がりや空気だまりがある	確認し修正する
	加湿モジュールが汚れて吸水性が低下し水滴飛散している	加湿モジュールを洗浄または交換
	上記以外の場合	▮ サービスコール
④異常音		
正 常 (12 頁 4-1. 参照)	給水圧力が高すぎる	確認し修正する
	減圧弁の振動音	配管のエア抜きをする
	排水配管に空気だまりができている	確認し修正する
	上記以外の場合	▮ サービスコール
⑤異 臭		
正 常 (12 頁 4-1. 参照)	水質が悪い	確認し修正する 加湿モジュール洗浄または交換
	本体が水平でなくドレンパンに水が滞留している	確認し修正する 加湿モジュール洗浄または交換
	排水配管からの異臭	排水トラップ等の検討
	経時的な加湿モジュールの汚れ	加湿モジュール洗浄または交換
	上記以外の場合	▮ サービスコール
備 考	※警報表示灯が点灯して運転を停止している場合には、15 頁「4-5. 警報発生時の運転停止動作およびリモコンスイッチの表示について」を参照して原因を調べて処置したうえ、加湿器の漏電ブレーカ（電源元スイッチ）を一度 OFF にしてリセットします。	

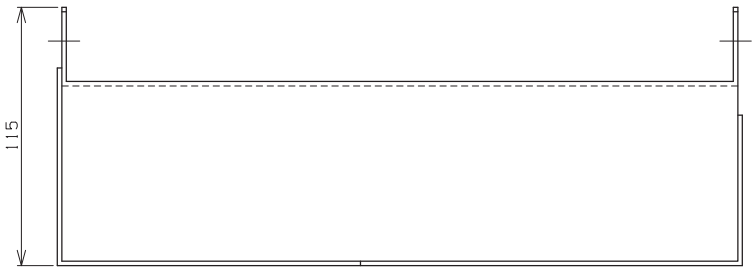
7. 参考資料

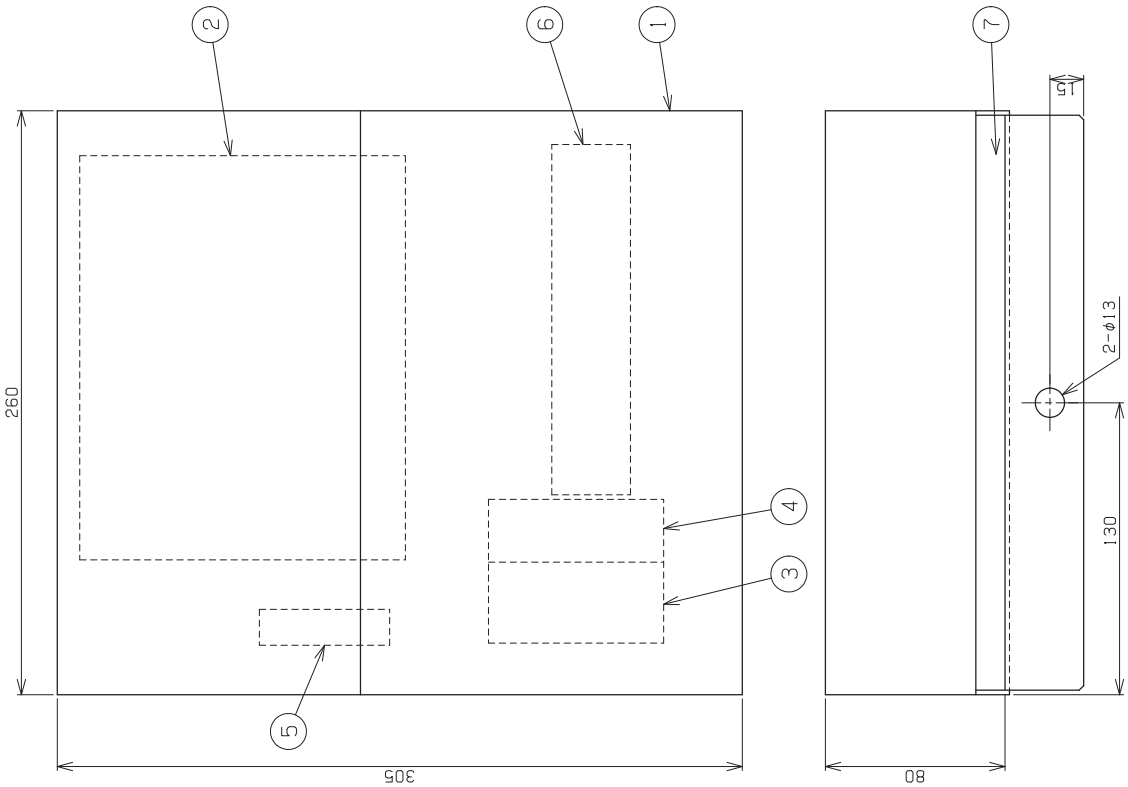
7-3. アフターランン制御ボックス外形図

図面名称　ウエットマスター
WM-AFB-VS
VSB用アフターラン制御ボックス外形図

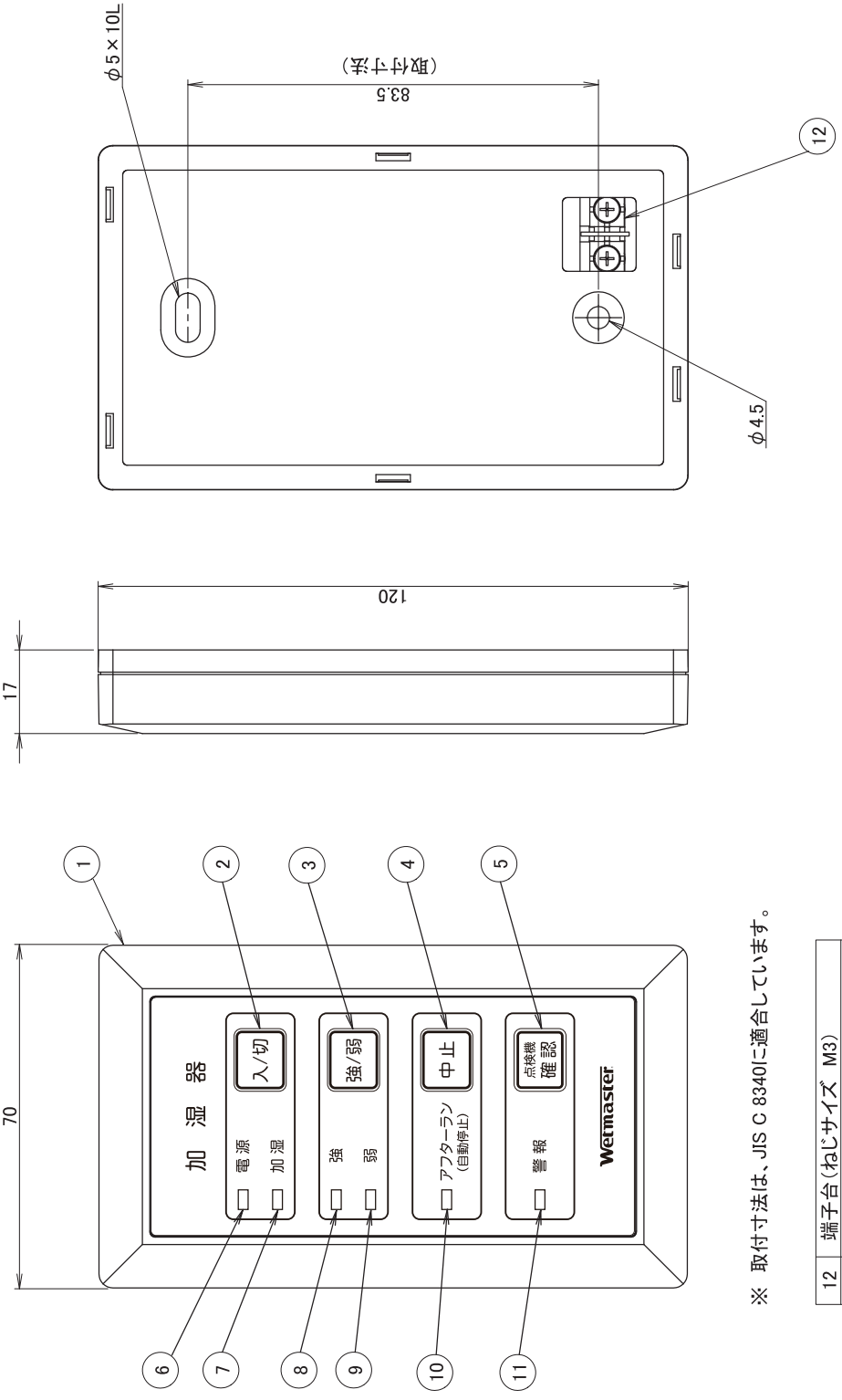


番号	部品名称	仕様
⑦	電線取出口	
⑥	端子台	12P
⑤	ヒューズ	10A
④	ファン運転リレー（弱）	AC100V
③	ファン運転リレー（強）	AC100V
②	コントロールユニット	VKCU-S
①	ケーシング	SGCC





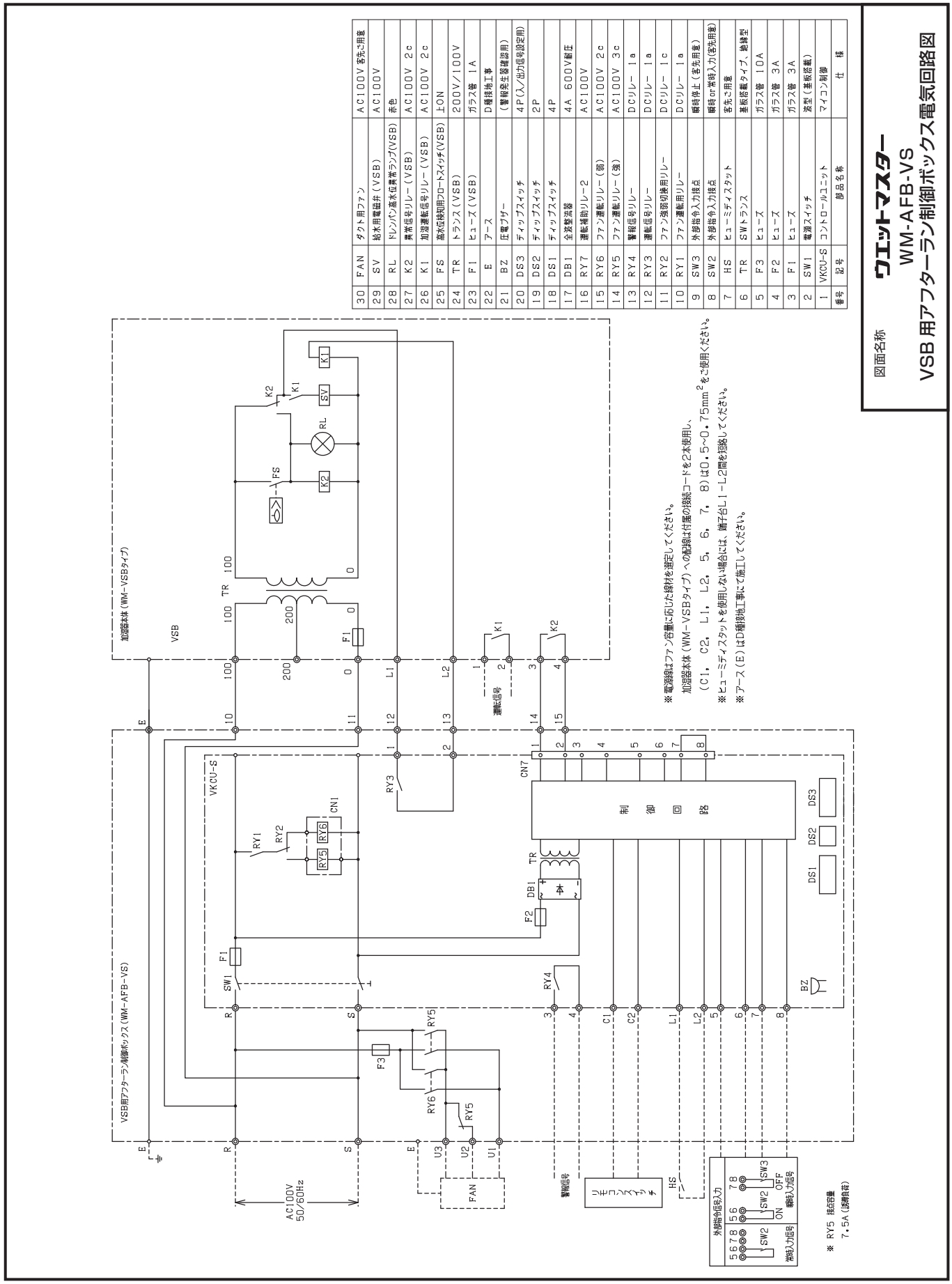
7-2. アフターランン制御ボックス用リモコンスイッチ外形図



※ 取付寸法は、JIS C 8340に適合しています。

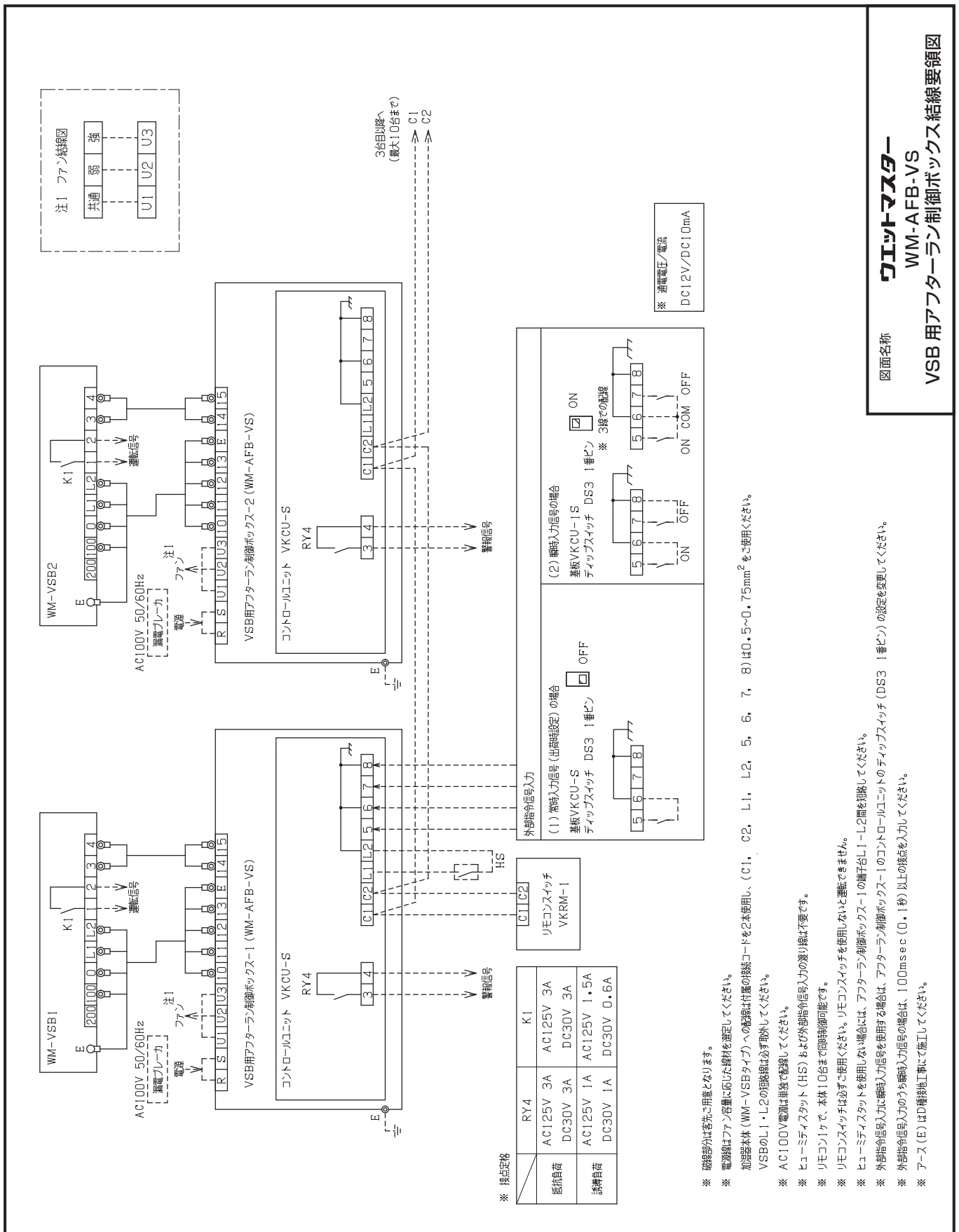
番号	部品名称
1	リモコンスイッチケース
2	運転ボタン
3	強/弱切替ボタン
4	アフターラン中止ボタン
5	点検機確認ボタン
6	電源表示灯(緑)
7	加湿表示灯(緑)
8	強表示灯(橙)
9	弱表示灯(橙)
10	アフターラン表示灯(緑)
11	警報表示灯(赤)
12	端子台(ねじサイズ M3)

7-3. 電気回路図



番号	記号	部品名称	仕様
30	FAN	ダクト用ファン	AC100V 客先ご用意
29	SV	給水用電磁弁(VSB)	AC100V
28	RL	ドレンパン高水位異常ランプ(VSB)	赤色
27	K2	異常信号リレー(VSB)	AC100V 2c
26	K1	加湿運転信号リレー(VSB)	AC100V 2c
25	FS	高水位検知用フロートスイッチ(VSB)	⊥ON
24	TR	トランス(VSB)	200V/100V
23	F1	ヒューズ(VSB)	ガラス管 1A
22	E	アース	D種接地工事
21	BZ	圧電ブザー	(警報発生器確認用)
20	DS3	ディップスイッチ	4P(入/出力信号設定用)
19	DS2	ディップスイッチ	2P
18	DS1	ディップスイッチ	4P
17	DB1	全波整流器	4A 600V耐圧
16	RY7	運転補助リレー2	AC100V
15	RY6	ファン運転リレー(弱)	AC100V 2c
14	RY5	ファン運転リレー(強)	AC100V 3c
13	RY4	警報信号リレー	DCリレー 1a
12	RY3	運転信号リレー	DCリレー 1a
11	RY2	ファン強弱切換用リレー	DCリレー 1c
10	RY1	ファン運転用リレー	DCリレー 1a
9	SW3	外部指令入力接点	瞬時停止(客先用意)
8	SW2	外部指令入力接点	瞬時or常時入力(客先用意)
7	HS	ヒューミディスタット	客先ご用意
6	TR	SWトランス	基板搭載タイプ、絶縁型
5	F3	ヒューズ	ガラス管 10A
4	F2	ヒューズ	ガラス管 3A
3	F1	ヒューズ	ガラス管 3A
2	SW1	電源スイッチ	波型(基板搭載)
1	VKCU-S	コントロールユニット	マイコン制御

7-4. 結線要領図


図面名称
ウエットマスター
WM-AFB-VS
VSB 用アクターラン制御ボックス結線要領図
WM-VSB1
WM-VSB2
K1
200 100 0 L1 L2
運転信号
AC100V 50/60Hz
漏電ブレーカ
電源
注1
ファン
R S U1 U2 U3 I0 I1 I2 I3 E I4 I5
VSB用アクターラン制御ボックス-1 (WM-AFB-VS)
VSB用アクターラン制御ボックス-2 (WM-AFB-VS)
コントロールユニット VKCU-S
RY4
3 4
C1 C2 L1 L2 5 6 7 8
警報信号
HS
リモコンスイッチ
VKRM-1
外部指令信号入力
(1) 瞬時入力信号 (出荷時設定) の場合
基板VKCU-S
ディップスイッチ DS3 1番ピン
OFF
(2) 瞬時入力信号の場合
基板VKCU-1S
ON
※ 3線の配線
ON OFF
ON COM OFF
3台目以降
(最大10台まで)
C1
C2
注1 ファン結線図
共通 弱 強
U1 U2 U3
※ 通電電圧/電流
DC12V/DC10mA
※ 接点定格
RY4
K1
抵抗負荷
誘導負荷
AC125V 3A
DC30V 3A
AC125V 1A
DC30V 1A
AC125V 3A
DC30V 3A
AC125V 1.5A
DC30V 0.6A
※ 破線部分は客先ご用意となります。
※ 電源線はファン容量に応じた線材を選定してください。
加湿器本体 (WM-VSBタイプ) への配線は付属の接続コードを2本使用し、(C1, C2, L1, L2, 5, 6, 7, 8) は0.5~0.75mm² をご使用ください。
VSB0L1・L2の短絡線は必ず取外してください。
※ AC100V電源は単独で配線してください。
※ ヒューミディスタット (HS) および外部指令信号入力の渡り線は不要です。
※ リモコンにて、本体10台まで同時制御可能です。
※ リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。
※ ヒューミディスタットを使用しない場合には、アクターラン制御ボックス-1の端子台L1-L2間を短絡してください。
※ 外部指令信号入力に瞬時入力信号を使用する場合は、アクターラン制御ボックス-1のコントロールユニットのディップスイッチ (DS3 1番ピン) の設定を変更してください。
※ 外部指令信号入力のうち瞬時入力信号は、100msec (0.1秒) 以上の接点を入力してください。
※ アース (E) はD種接地工事にて施工してください。

ウエットマスター株式会社

本社営業本部　〒161-8531　東京都新宿区中落合 3-15-15 WM本社ビル　TEL.03−3954−1101

●アフターサービスのお問い合わせは、保守管理グループ直通　TEL.03−3954−1110

大 阪 支 店　〒540-0024　大阪市中央区南新町 1-1-2 タイムスビル　TEL.06−4790−6606

名古屋支店　〒464-0075　名古屋市千種区内山3-1-4ハートヒルズ千種　TEL.052−745−3277

仙台営業所　〒981-3135　仙台市泉区八乙女中央 5-17-12　TEL.022−772−8121

福岡営業所　〒812-0004　福岡市博多区榎田 2-1-10　TEL.092−471−0371

●業務用・産業用各種加湿器

●流量管理システム機器／エアロQシステム・カラムアイ

ISO 14001
BUREAU VERITAS
Certification

東京本社
ISO14001:2004
認証取得

PERRY JOHNSON
REGISTRARS, INC.

東京本社
ISO9001:2008
認証取得

5710-011401